

組織の再生を促す生体活性ガラスの開発

小幡亜希子 (名古屋工業大学 生命・応用化学科 環境セラミックス分野)



1. 背景

- 2. 細胞に対するイオンの組合せ効果
- 3. わた状ガラス繊維構造体の作製
- 4. まとめ



生体活性ガラスの発明(1970年頃)

Prof. Larry Hench University of Florida

45S5 bioactive glass

 $(46.1SiO_2-26.9CaO-24.4Na_2O-2.5P_2O_5 \text{ in mol}\%)$

生体活性ガラス・セラミックス✓ 生体内で化学的に反応

✓ 骨と自然に直接化学結合する

Bioglass[®] (45S5 bioactive glass) 水酸アパタイト $Ca_{10}(PO_4)_6(OH)_2$ β-リン酸三カルシウム β -Ca₃(PO₄)₂ など



(Hench LL, 1998)





(Bio-glasses edited by Jones and Clare, 2012)

β-リン酸三カルシウム (HOYAカタログより)



骨の成長に対するSiの影響(1970年頃) Carlisleらの報告

✓ Siが骨の成長部位に特に多く存在✓ 正常な骨格成長にSiの摂取が重要



FIG. 1. Four-week-old chicks on silicon-supplemented diet (left) and low-silicon basal diet (right) (Carlisle 1972).



45S5 bioactive glassの優れた骨形成機能の要因の一つとして溶出イオンに着目

45S5 bioactive glass

(46.1SiO₂-26.9CaO-24.4Na₂O-2.5P₂O₅ in mol%)

45S5ガラスから溶出する微量のSiとCaが ヒト骨芽細胞の増殖を促進

・骨芽細胞の生細胞数が増大;コントロールの155% ・成長因子(IGF II)の産生を促進;コントロールの290%→



⁽Xynos ID. et al., 2001)

58S bioactive glass

 $(60SiO_2-36CaO-4P_2O_5 \text{ in mol}\%)$

58Sガラスから溶出する微量のSiとCaが ヒト骨芽細胞の石灰化を誘導

・ガラスからのイオン供給のみで細胞の石灰化を
引き起こす(赤色部位が石灰化基質) →



(Gough JE. et al., 2004)











骨芽細胞や間葉系幹細胞



活性化効果が報告されているSi, Ca, Mgについて 組合せによる作用(相乗・拮抗作用)の調査

組織再生の促進に有効な組合せ









Fig. MC3T3-E1 cell numbers after 3 hours of culture in ion containing media.





Fig. Adhered cell numbers cultured for 3 hours in ions containing media.

組合せ効果の判定方法

(J.C. Wataha, et al, 1992)













(G)







細胞の蛍光染色画像 青色;核 赤色;F-アクチン





各形状の細胞の存在割合 (150個の細胞を対象に、 アスペクト比と枝分かれ数から分類)







まとめ(イオンの組合せ効果)

骨芽細胞様細胞に対するSi, Ca, Mgの3種のイオンの供給において、 組み合わせによる影響を調査した。

- 3種のイオンを全て供給することで、接着した生細胞数が増大した。
- Mgイオンの供給によって、接着過程に対する相乗効果を確認した。
- 接着および増殖過程に対し、相乗効果をもたらす因子となるイオン種は 異なることがわかった。(接着ではMg、増殖ではSi)

イオン供給源となる生体活性ガラス・セラミックスの 組成の設計に活用





- イオンによる骨形成の促進
- 複雑形状部位にも対応可能な柔軟性 と操作性
- 軟組織再生への展開

わたの様な立体的な繊維構造体

エレクトロスピニング法(電界紡糸法)

シート状の繊維構造体(不織布)の作製方法の一つ



- 積層する繊維の立体化
- Agイオンの溶出による抗菌機能付与 (感染予防→正常な組織再生)







スピニング時の湿度





Fig. Photographs showing the morphology of 70S30C sol electrospun at different relative humidity values (A) 27%, (B) 35%, (C) 55% and (D) 65%.

SEM·XRD



Fig. SEM images of the 70S30C and 70S28C2Ag samples with different stabilization temperatures.



Fig. XRD spectra of the 70S30C and 70S28C2Ag samples with different thermal stabilization temperatures.

(Ju Q., ..., Obata A. et al., Biomater Adv, 2022)

TEM



Fig. TEM images of the 70S30C and 70S28C2Ag samples with different stabilization temperatures.

	Temperature (°C)	Mean diameter (nm)
Table Silver mean diameter in 70S28C2Ag samples from TEM images at different stabilizing temperatures.	600 °C	3.68 ± 1.17
	650 °C	3.96 ± 1.35
	700 °C	12.5 ± 1.29
	800 °C	25.98 ± 12.29

培地中でのイオン溶出







Table Specific surface area (m²/g) at different stabilizing temperatures.

Temperature (°C)	70S30C	70S28C2Ag
Pre- calcination	5.35	12.6
600	11.0	25.6
650	20.6	18.6
700	35.6	17.7
800	12.9	10.3

(Ju Q., ..., Obata A. et al., Biomater Adv, 2022)





Fig. Number (log CFU/mL) of *E.coli* after 24 h cultivation with the 70S30C (0Ag) and 70S28C2Ag (2Ag) samples with different calcination temperatures. (dotted line; the level of Control sample before cultivation) (* p < 0.05 vs Control@24 h).



まとめ(わた状ガラス繊維構造体)

生体活性ゾルゲルガラス(70SiO₂-30CaO mol%)について、 わたの様な繊維構造体を作製した。また、抗菌機能を付与すべくAgの導入を試みた。

- スピニング時の湿度によって、シート状やわた状の繊維構造体が得られた。
- 焼成温度を上昇させるに従って、Ag粒子の成長が促進された。
- 焼成温度によって溶出イオン量が変化し、これに伴い抗菌機能の発現にも 作用することがわかった。

柔軟性や操作性の優れた生体活性ガラスであり、抗菌機能の 付与も可能

硬組織だけでなく皮膚などの軟組織の再生にも活用が期待